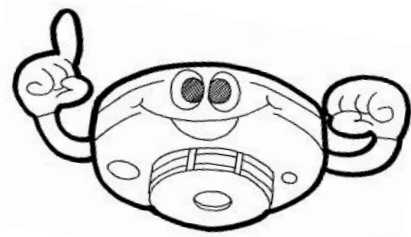


気をつけましょう!!



いのちを守るために

火災警報器の点検を!!

設置の義務化から10年経過
若林消防署 282-0119

- 火災の時は・・・
大声で周りに火災を知らせ、119番通報をしてください

- 乾電池交換タイプのものは電池交換が必要です。
- 本体の寿命はおおむね10年です。
- 点検方法は?
→点検は居住者が自ら行ってください。
警報器のタイプによりますが、ボタンを押すかひもを引いて「ピーピーピー 火事です」と鳴るか確認してください。
詳しくは取扱説明書をご覧ください。

財産を守るために

振り込め詐欺に注意!!

仙台市消費者生活センター

022-268-7867 (なやむな)

年末年始を除く 9:00~18:00

警察総合相談窓口 #9110

消費者ホットライン 188 (いやや)

振り込め詐欺かも・・・と思ったら

- 慌てず、冷静に!!
- 電話してきた相手の肩書きや名前、要求内容などはメモを取る。
- 何を聞かれても自分の個人情報(家族構成、携帯電話番号、銀行の口座番号など)は相手に教えない。
- 相手から教えられた電話番号などには絶対に連絡しない。



未曾有の東日本大震災を基に、
何気ない日常がいかに幸せなことか・・・

地域のために役立つ情報を伝えたいという一心で手さぐり状態で始まった「沖野かわら版」。

最初はなることか不安でしたが、メンバーに恵まれ、毎号発行することが出来ました。

また取材先で多くの方に出遭え、お話を伺い学んだことをお届けしてきました。

10号を節目に最終号になりますが、「備えあれば憂いなし」の言葉を忘れずにこれからも防災に心掛けて参ります。

沖じいの
地域を守る
かわら版
微力な私も
役に立ちたい

『沖じい、ありがとう!!』

<お問い合わせ先>

沖野かわら版編集室(沖野市民センター内) ☎984-0831

仙台市若林区沖野 7-34-43

TEL: 022-282-4571 FAX: 022-285-4681



沖野かわら版 第10号(最終号)

平成29年12月1日発行

沖野かわら版の創刊号が平成25年3月1日に発行されてから足掛け5年、今回で10号を数え、最終号となります。平成23年に発生した東日本大震災から二年を経て、私たちOKB5は微力ではありますが、地域防災力強化を目的に「沖野かわら版」を発行して参りました。

地域の防災訓練や防災シンポジウムの取材、HUG(避難所運営カードゲーム)やKIT(避難所開設準備カードゲーム)を市民センターと共に企画し、地域へ向けて講座を実施することで、自分たちの学びともなりました。その学びを「沖野かわら版」に反映することで、地域の方から多くの声を聞く事ができ、継続していく上で、かえって私たちの励みともなりました。

今までの学びをわかりやすくまとめてつくったものが「沖じいの防災紙芝居」です。貸出し用も準備いたしましたので、沖野市民センター窓口にお申し出ください。

沖じいのぬいぐるみもつくりましたので、最後に写真でお披露目させていただきます。

今までご愛読いただきありがとうございました。



仙台市の津波対策



津波避難場所



正式名称

「仙台東部道路
避難階段」

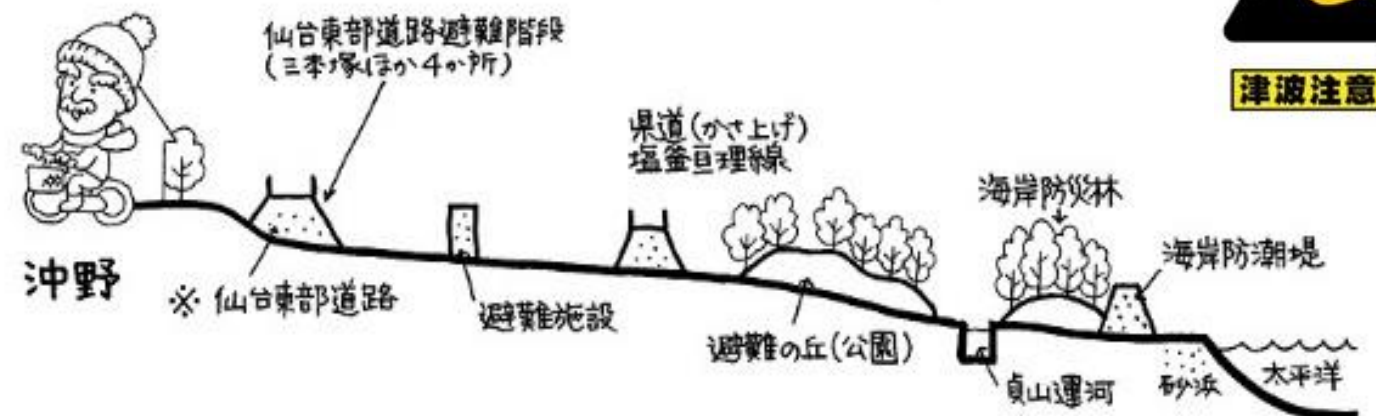
三本塚他4ヶ所

津波警報の種類

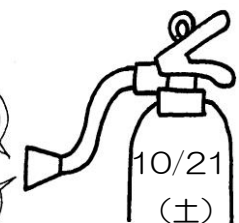
- 大津波警報…巨大10m超
- 津波警報…高い3m
- 津波注意報…1m



津波注意



沖野地区 総合防災訓練



沖野東小学校で行った防災訓練に参加して、震災後どのような訓練をしているのかを取材しました。

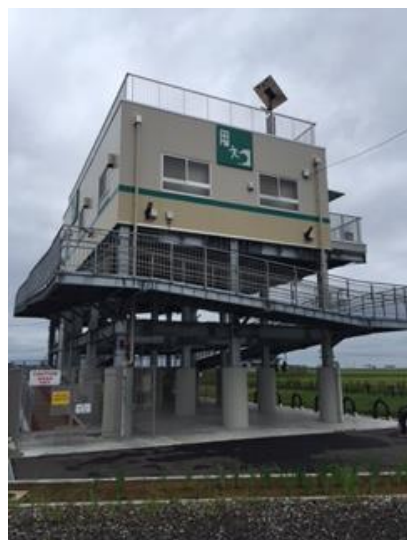
「非常食炊き出し訓練」

一般・中学生とグループに分かれ、戸惑いながらも、和気藹々と作業していた。
お湯がなかなかこないので一瞬不満の声も上がっていた。
上級生のパック詰めは整然と早くお手本になる。
出来上がった時は誰も満足な顔に。

「ホールでの訓練」

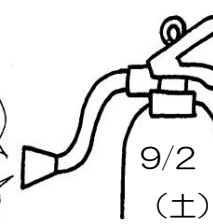
開会式に行った中学生によるエコノミークラス症候群予防体操は参加者を一つにさせた様だ。参加者にこれまでに参加したことがあるか聞いてみたところ、偶然なのか初めての人はなく、訓練が浸透しているのが見えてきている。
AEDの扱い方を説明する時、声が聞こえず残念だったが、その後数個のダミーで訓練が出来て良かった。

全体に楽しくなごやかに進行できたのが、婦人部の人達による応急処置方法を実践で、指導されて感心する人も見えた（参加者数477名）
タンカー訓練では持ち方、進行方法などを学んでいた



・タワー型（鉄骨造）
三本塚長屋敷津波避難タワー
H28.12 完成（150名収容）

六郷防災訓練



- 三本塚津波避難ビル 250名収容 H29.3 完成
- 三本塚長屋敷津波避難タワー 150名収容 H28.12 完成
- 井土津波避難タワー 150名収容 H28.6 完成
- 種次津波避難タワー 100名収容 H29.1 完成
- 二木津波避難タワー 400名収容 H29.1 完成



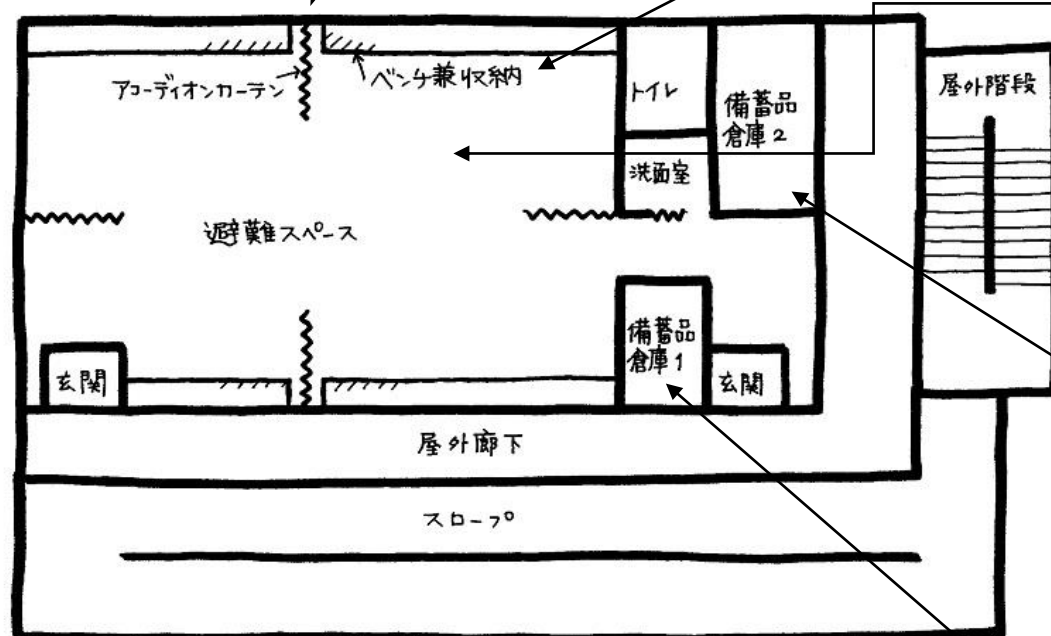
・ビル型（鉄筋コンクリート造）
三本塚津波避難ビル
H29.3 完成（250名収容）※消防団施設併設



外部との連絡手段……仙台市の災害対策本部等と連絡が取れるように防災行政用無線機器を設置
夜間停電時対策……屋上に太陽光発電柱を設置、カセットガス式発電機、LED投光器

避難時のストレスに配慮
内部空間をアコーディオンカーテンで仕切ることができる

高齢者などへの配慮
広めのトイレ空間の確保やベンチの設置など



備蓄品……食糧（水、クラッカー、ようかんなど約200名3~4日分）
冷蔵庫、卓上コンロ、鍋、扇風機、非常灯、毛布、座布団、組立トイレ（トイレ用テント）、長机、コピー機、ストーブ、発電機、投光器（カセットコンロのボンベ2本で2時間）、ソーラー蓄電池、うきわ、ロープ、ボート



避難する際は
各家庭で準備している
非常持出袋を
持参しましょう

「避難ビルの今後や防災訓練について」

地域との交流会などを行っている。
3.11の時も女性が避難所運営に関わっていなかったが、今回の訓練でも女性は関わっていなかった。各地区の今後の課題でもある。
生理用品や、乳幼児のいる母親などのケアには女性が必要だと思った。
参加した若い女性の方に取材したところ、「避難ビルまで徒歩20分、車で3分、東部道路まで徒歩10分弱、小さい子どもを連れて避難するのは大変。」との声もあった。日頃から避難所の場所や経路を把握しておくことが大切。
今回、三本塚避難ビルの取材にご協力いただいた六郷市民センター、三本塚町内会の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。